

スモン検診時対象者への『よろず悩み事相談』活動

三ツ井貴夫 (国立病院機構徳島病院神経内科)
高橋 美和 (国立病院機構徳島病院地域医療連携室)
佐藤 裕美 (徳島県東部保健福祉局)
浦山 奈々 (国立病院機構徳島病院看護部)
小原 千暖 (国立病院機構徳島病院看護部)
細川絵理香 (国立病院機構徳島病院看護部)
井上真理子 (国立病院機構徳島病院看護部)
向山 結唯 (国立病院機構徳島病院療育指導室)
岡本 和之 (国立病院機構徳島病院リハビリテーション科)
新開 百合 (国立病院機構徳島病院リハビリテーション科)
栗内 敬子 (徳島大学病院医療支援課)
郡 章人 (徳島県鳴門病院医療福祉相談室)
島 治伸 (徳島文理大学保健福祉学部)
乾 俊夫 (国立病院機構徳島病院神経内科)
松家 豊 (整形外科)

研究要旨

スモン検診は検診を行うと同時に医療・福祉相談に対応している。スモン検診被検診者は近年高齢化の傾向にあり、様々な併発症に悩まされているのみならず、鬱傾向にあるものも少なくない。このことから、スモン患者が快適な生活をする上で多様な悩み事に多職種から介入することが必要と考え、平成 28 年度は検診と同時に、よろず悩み事相談活動を実施した。被検診者に事前に質問用紙を送付して得た回答結果と、検診終了後のアンケートの回答結果を通して、よろず悩み事相談活動が被検診者にとって有効であったかを質的データ分析¹⁾し、考察を行った。その結果、被検診者の多様な悩み事に多職種が相談対応することは、被検診者の心理的負担の軽減に役立つことが分かった。また検診者にとっても、被検診者の社会心理的ニーズの把握やピアカウンセリング機能としての役割の発見があった。

A. 研究目的

平成 28 年度徳島県スモン検診と同時に『よろず悩み事相談』を実施した。医師・看護師・理学療法士・臨床心理士・社会福祉士の多職種で、被検診者の悩み事への相談対応を行うことの有効性を検証することを目的とした。

B. 研究方法

対象：平成 28 年度徳島県スモン集団検診に参加した 70 歳～98 歳の男女 24 名。

検診前の事前アンケートは郵送と検診当日受付時に聞き取りにて実施した。質問内容は以下の 3 項目。

1. 毎日の生活の中で困っていること、悩んでいることで相談がありましたら以下にお気軽にお書きください。

表 1

検診前相談

『毎日の生活の中で困っていること・悩んでいることで相談したいことがありましたら以下にお書き下さい』

介護	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に利用できる交通手段について情報提供して欲しい。外出時の付き添いが欲しい。 ・移動時の交通手段に困る。 ・生活面で頼りにしている妻の目の衰えで車の運転が出来なく外出に困っている。 ・サービス付高齢者住宅の利用者の平均年齢について教えて欲しい。 ・支援制度について知りたい。 ・介護保険の限度額認定申請収入欄に、健康管理手当等は収入として記載するのか。
健康	<ul style="list-style-type: none"> ・不眠気味、頻尿で足がビリビリ痛む。鼻や喉の調子が悪く薬が多い。 ・全体的な体調不良について相談して欲しい。 ・体調不良時のサプリメントの服用について相談したい。 ・喘息がひどく、咳や痰があってゆっくり眠れない。薬は飲みたくない。 ・体のことで悩みはたくさんある。 ・アレルギーで紫外線をうけると真っ赤になる。薬が合わず痛みや痒みが辛い。 ・パーキンソン病と言われた。転倒し易く歯が折れたり怪我をすることが多い。 ・足の痛みがあり、階段の上り下りが辛い。リハビリに行っている。 ・加齢とともに足がつり、骨が痛いので困っている。 ・夜間不眠がある。 ・足の痛みがあり、リハビリに通院している。 ・胃のピロリ菌の検査方法と保険診療費を教えて欲しい。 ・白内障の手術に対して名医を紹介して欲しい。 ・3年前に肝臓がんの手術をした。かかりつけの Dr が説明不足。現在経過は良好であるものの、心配が残る。
心理的	<ul style="list-style-type: none"> ・悩みがたくさんあり、一つには絞れない。 ・家で過ごすことが増えてきた。 ・キノホルムを服用し、症状が出たことへの原因や過程などは解明されているのでしょうか。 ・発病した当初、山伏さんから教えてもらった民間療法で酢の物を沢山食べた。昭和 45 年発病、同年 9 月発売中止の故か自分は軽症である。現在 83 歳。後何年生きられるか分からないが今後の生き方を教えて欲しい。 ・患者会の窓口として家族も家業の犠牲にして今まで患者の救済のために限界まで努めてきたが、スモン自体の風化や医師もスモンを知らない状況の中、恒久対策を守れるように願っているが現実的には難しいと感じている。患者会の運営について限界がきていると感じている。 ・平成 28 年 3 月 15 日に胃の内視鏡検査のときに診療費を請求された。世間の制度理解が不十分。

2. 文に書くのではなく、直接、面談して相談したい場合は以下の欄に をつけて下さい。

3. 相談したいことが無い場合は以下の欄に をつけて下さい。

検診終了後のアンケートは被検診者に聞き取り、もしくは記入にて回答を求めた。内容は以下の 4 項目。

1. 今回の検診の印象は。
2. 相談を受けられて良かったことは何かありますか。
3. この相談会で改善してほしいことは何かありますか。
4. 検診に対する感想やご要望がありましたら何でもお書き下さい。

以上の検診前の事前アンケートと、検診終了後に行ったアンケート調査の回答結果からキーワードを抽出し、

質的データ分析することによって、表出された被検診者のニーズを考察した。本文中のカテゴリーは《 》、サブカテゴリーは コードは「 」とする。

(倫理面への配慮)

本研究は国立病院機構徳島病院の倫理委員会の承認後に実施した。

C. 研究結果

検診前アンケート結果

1. 毎日の生活の中で困っていること、悩んでいることで相談がありましたら以下にお気軽にお書きください。(表 1)

事前に送付、もしくは検診前の質問事項では 24 名中 11 名から回答があった。質問の回答結果をキーワードごとにカテゴリー分析したところ《介護》《健康》

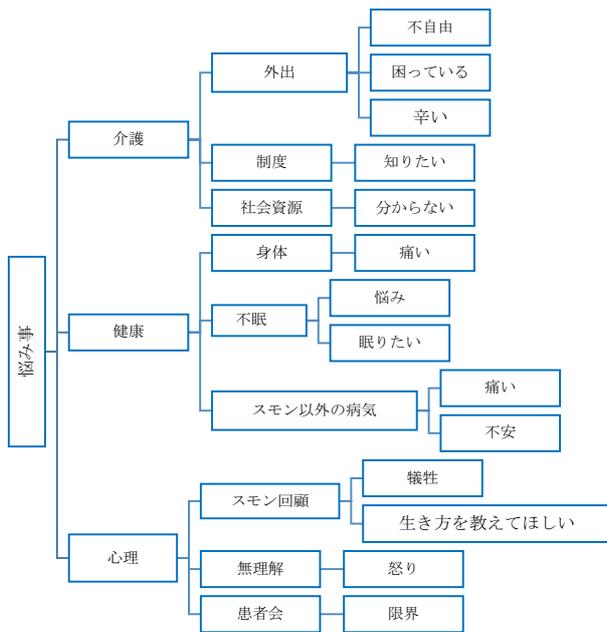


図 1

《心理》に分けられた。(図 1)

《介護》はサブカテゴリーの 外出 制度 社会資源 から構成されており、外出 は「不自由」「困っている」「辛い」といったコードと、制度 では「知りたい」といったコード、社会資源 では「分からない」といったコードより構成されていた。

《健康》はサブカテゴリーの 身体 不眠 スモン以外の病気 で構成されており、身体 には「痛い」といったコードと、不眠 では「悩み」「眠りたい」といったコード、スモン以外の病気 では「痛い」「不安」といったコードより構成されていた。

《心理》はサブカテゴリーの スモン回顧 無理解 患者会 から構成されており、スモン回顧 は「犠牲」「生き方を教えてほしい」といったコードと 無理解 では「怒り」といったコード、患者会 では「限界」といったコードより構成されていた。

2. 文に書くのではなく、直接、面談して相談したい場合は以下の欄に をつけて下さい。

直接面談して相談したいと回答したのは 11 名中 6 名であった。

3. 相談したいことが無い場合は以下の欄に をつけて下さい。

直接面談して相談したいと回答したのは 11 名中 0 名であった。

毎日の生活の中で困っていること、悩んでいることで相談したいことがありましたら以下にお気軽にお書き下さい。

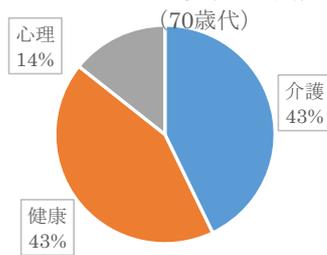


図 2

毎日の生活で困っていること、悩んでいることで相談したいことがありましたら以下にお気軽にお書き下さい。

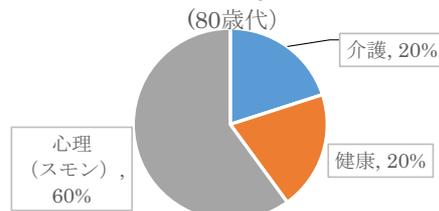


図 3

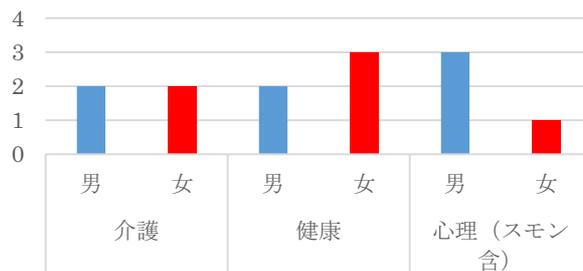


図 4 性別 (悩み事)

悩み事を年代別にみると 70 歳代の特徴では、《健康》と《介護》に対し全体の 86%が不安を持っており、《心理》に関する不安が 14%であった。(図 2) 80 歳代の特徴としては全体の 60%がスモンへの心理的葛藤を抱えていた。(図 3)

性別で悩み事の内容をみると《介護》は男女とも各 2 名、《健康》では男性 2 名、女性 3 名が不安をもっており、《心理》については男性 3 名、女性 1 名が悩んでいると回答していた。《介護》と《健康》は殆ど性差がなかった。《心理》においては男性が高い率を占めていた。(図 4)

・ 検診終了後のアンケート結果

検診者 24 名参加のうち 19 名が回答した。回答率 79

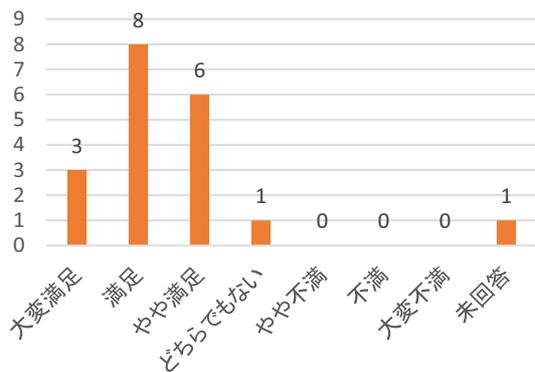


図5 検診満足度調査

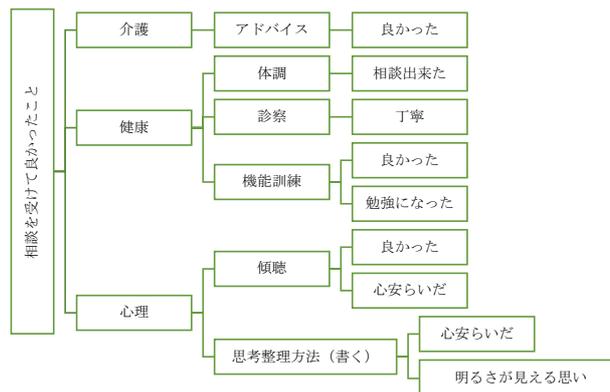


図6

表2

1. 相談を受けられて良かったことは何かありますか

介護	・聞いていろいろ教えてもらって良かった。制度のことや運動方法等勉強になった。
健康	・眩暈について相談できて良かった。 ・睡眠不足のことについて相談できた。 ・Dr にアドバイスしてもらって良かった。 ・丁寧な診察をしてくれ、話を聞くことが出来て良かった。 ・理学療法士から家で出来るストレッチなどを教えてもらって良かった。 ・足の浮腫みやりハピリについて相談できて良かった。 ・かかりつけの先生にみてもらっているの、ケアなどの相談もしている。
心理	・心理士に話を聞いてもらい心安らいた。 ・現在頭で考えてまとまらない。どうどうめぐりでした。心理士に話を聞いてもらい、文章化するなど思考の整理の仕方を教わった。何か明るさが見える思いです。 ・自分勝手なことばかり書きましたが心に安らぎを持つことが出来ました。すみません。 ・不安なことを聞くことが出来た。 ・話を聞いてもらって良かった。皆（他の患者さん）と話が出来て良かった。 ・特に悩みなどはない。

%であった。

1. 今回の相談会の印象。

回答者 19 名のうち『大変満足』3 名、『満足』8 名、『やや満足』6 名『どちらでもない』が 1 件、『やや不満』、『不満』、『大変不満』は 0 件、『未回答』が 1 名と、やや満足以上が 17 名という結果となった。(図 5)

2. 相談を受けられて良かったことは何かありますか。(表 2)

アンケートの回答結果をキーワードごとにカテゴリー分析したところ、『介護』『健康』『心理』に分けられた。(図 6)

『介護』はサブカテゴリーの『アドバイス』から構成されており、『良かった』といったコードより構成されていた。

『健康』はサブカテゴリー『体調』『診察』『機能訓

練方法』から構成されており、『体調』は『相談出来た』といったコードと、『診察』は『丁寧』といったコード、『機能訓練方法』は『良かった』『勉強になった』といったコードより構成されていた。

『心理』は『傾聴』『思考整理方法』のサブカテゴリーで構成されており、『傾聴』は『心安らいた』『良かった』といったコードと、『思考整理方法』は『明るさが見える思い』といったコードより構成されていた。

3. この相談会で改善してほしいことは何かありますか。

アンケートの回答結果では回答者 19 名中 14 名は『特にない。今まで通りでよい。』とあったが、3 名からは『もっと時間をかけて指導して欲しい。』『スモンの症状には個人差がある、それぞれに対応して欲しい。』『色々悩み事はあるが家庭のこと。頑張る。高齢が気

表 3

2. この相談会で改善して欲しいことは何かありますか

<ul style="list-style-type: none"> ・もっと長い時間をかけて指導して欲しかった。(相談の充実) ・スモンの症状にも個人差があるので、それぞれに対応できる Dr に来て欲しい。(Dr の充実) ・色々家庭の心配はあるが、自分で頑張っていこうと思っている。高齢が気になる。(個人的な相談にも対応しい欲しい) ・特にない。いつもと同じで良い。(14 件)

表 4

3. 検診に対する感想やご要望がありましたら何でもお書き下さい

検診	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の相談会は大変良かった。講演会よりも良かった。 ・昨年の講演も良かったが、今年の相談会も良かった。 ・大変良かったと思う。悩みは皆さんあると思う。これからもよろしくお願いします。 ・毎年検診して頂きありがたく思い、感謝している。 ・検診があったらまた来る。ありがとう。 ・これまでの検診と変わりなし。 ・今回検診のスピードが速く、良かった。 ・感謝している。 ・いつもどおりで良い。ありがとうございます。
診察	<ul style="list-style-type: none"> ・今日みたいに丁寧な診察をしてくれて嬉しい。 ・先生が良く聞いてくれるので満足である。 ・東京のスモンの会に出席したが、地方によっては尿検査や血液検査をしているが、徳島はないのか。(病院で診察することで可能であるが、希望者のみ) ・握力・歩行時間等数字で出るものは他の同年代の方達と比べてどのあたりなのか教えて欲しい。 ・もっと時間をかけて診察して欲しい。
心理	<ul style="list-style-type: none"> ・今までどおり皆と顔を合わすことができるのが楽しみです。 ・毎年色々な人の顔を見ることが出来て嬉しい。 ・話を聞いてもらって良かった。皆(他の患者さん)と話が出来て良かった。

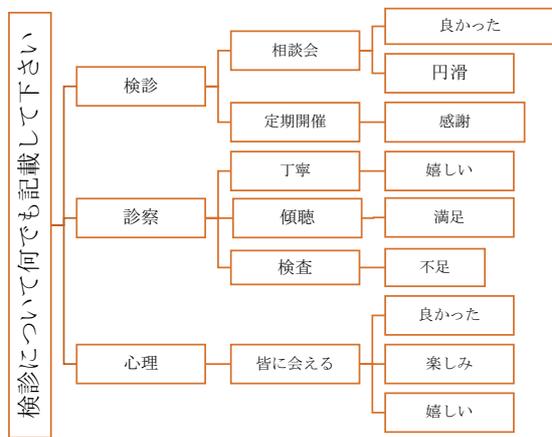


図 7

(図 7)

《検診》はサブカテゴリーの 相談会 定期開催 から構成されており、相談会 には「良かった」「円滑」といったコードと、定期開催 は「感謝」といったコードより構成されていた。

《診察》はサブカテゴリーの 丁寧 傾聴 不足 から構成されており、丁寧 は「嬉しい」といったコードと 傾聴 は「満足」といったコード、検査 は「不足」といったコードより構成されていた。

《心理》はサブカテゴリーの 皆と会える から構成されており、「良かった」「楽しみ」「嬉しい」といったコードより構成されていた。

になる。」といった内容であった。2名は無回答であった。(表 3)

4. 検診に対する感想やご要望がありましたら何でもお書き下さい。(表 4)

アンケートの回答結果をキーワードごとにカテゴリー分析したところ《検診》《診察》《心理》に分けられた。

D. 考察

検診前の事前相談用紙から相談内容を事前に把握し、介護・健康・心理にカテゴリー分類することで、円滑に適切な職種に繋げることが出来、検診の待ち時間によるストレスの軽減に繋がった。

年代別に回答結果をみると、70歳代は、健康と介護に対し全体の86%が不安を抱えており、現在の生活状況に関心が高いことが分かった。80歳代の特徴では、全体の60%がスモンへの心理的悩みを抱えていた。スモンの発症当時の回顧や、差別による苦悩を過去の新聞記事にて語る場面もあり、スモンが原因不明の奇病といわれ社会問題になった昭和20年代～30年代の社会的背景²⁾が心理的に影響していると考える。

カテゴリー別にみると、《介護》においては制度や社会資源 外出 に対して情報不足や困り事があることが分かった。《健康》においては身体的痛みや不眠による悩みとスモン以外の疾患の不安が明らかになった。《健康》《介護》に看護師、理学療法士、社会福祉士が相談対応することによって、検診終了後のアンケートの回答結果では、「良かった」「勉強になった」といったポジティブな意見へと変化があった。

《心理》については、スモンについての心理的表出が特徴的であった。スモン回顧 では「犠牲」「生き方を教えてほしい」スモンの 無理解 に対する「怒り」や、患者会 において「限界」を感じているなど、被検診者の心の深い部分の感情が表出された。そして臨床心理士の相談対応により「安らかな気持ちになった」「良かった」「明るさが見える思い」と検診終了後のアンケートの回答結果から心理的アプローチが有効であることが分かった。

多職種による相談対応のみならず、事前相談用紙に自由に記載できたことを「自分勝手なことばかりを書きましたに心に安らぎがもてた」とあり、書くことが感情整理に繋がったという効果があった。また年に一度の検診で《皆と会える》ことで、被検診者同士が会って話をし、情報共有することに喜びや楽しみを感じていることが分かった。スモン検診が被検診者同士の交流の場となり、励みになっていることでピアカウンセリングとしての機能があることが分かった。

《健康》《介護》《心理》ともに検診前の事前相談回答ではネガティブだったキーワードから、検診終了後のアンケート回答ではポジティブなキーワードへと変化しており、多様な悩み事に、多職種からよらず悩み事相談を行ったことによって被検診者の社会心理的負担軽減に役立ったと考える。

E. 結論

今回スモン検診とよらず悩み事相談活動を同時に開催、被検診者の高齢化に伴う多様な悩み事に多職種から専門的な相談対応したことで、被検診者の心理的負担の軽減に役立った。また検診者にとっても、被検診者の社会心理的ニーズの把握と、被検診者同士が会って話しをし、情報共有することを楽しみや励みとしているといったピアカウンセリング機能提供の場としての役割の発見があった。今回の活動は今後のスモン検診の充実を図る上で意義のあることであった。今後ともスモン検診において健康や介護に関する情報提供や、心理的アプローチによる被検診者の社会的心理負担軽減を図る継続的支援が必要と考える。

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

I. 文献

- 1) 佐藤郁也：質的データ分析法 原理・方法・実践
株式会社新曜社
山浦晴男：質的統合法 入門考え方と手順 医学書院
戈木クレイグヒル茂子 編：質的研究法ゼミナール - 第2版 - グラウンデッド・セオリー・アプローチを学ぶ 医学書院
- 2) 小長谷正明：スモンの集い 2015 スモンの経緯と現状 P1 厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）））